

上関地点 2019年度 環境監視調査結果について(報告書の概要)

2019年度の水質調査結果は、管理目標値を満足していた。

陸生、海生生物については、過去の調査結果と比較して顕著な変化は見られなかった。

項目		調査時期	調査結果概要			
水質	陸域工事排水の水質	月1回	水素イオン濃度、浮遊物質量ともに管理目標値内であった。			
			項目	調査結果	管理目標値	
			水素イオン濃度	6.8~7.2	5.0以上9.0以下	
			浮遊物質量 (日平均値)	8mg/L 以下	150mg/L 以下	
陸生生物	ハヤブサ	4~6月:2回/月 2月:1回/月 3月:2回/月	2019年度は、4月にふ化したヒナを確認し、5月下旬には巣立ちした幼鳥2羽を確認した。 また、親鳥(雄・雌)は各月で確認した。			写真1
	植生	春・夏 各1回 5月7, 8日 7月22, 23日	イヨカズラを7箇所15株、ジュウニヒトエを47箇所415株、イヌノフグリを5箇所119株、キンランを3箇所8株、ギンランを1箇所1株、クロムヨウランを5箇所16株、ミヤマウズラを1箇所1株、ビヤクシンを1箇所1株確認した。			写真2
海生生物	潮間帯生物	年2回 4月17, 18日 10月24, 25日	植物ではヒジキ、イワノカワ科など47種、動物ではイボニシ、クロフジツボなど48種を確認した。 【確認種数】・植物:春46種, 秋26種 ・動物:春41種, 秋39種			写真3
	海藻草類		ノコギリモク、サビ亜科など51種を確認した。 【確認種数】春49種, 秋27種			
	底生生物		サザエ、ムラサキウニなど6種を確認した。 【確認種数】春6種, 秋6種			
	スナメリ	3月~10月 (週1回・計32日)	確認回数は計57回、延べ136頭を確認した。			
	カクメイ科等の貝類	年4回 5月14~16日 8月27~29日 11月25日, 12月11日 2月19~20日	カクメイ科の貝類を1個体確認した。 タイドプール※2箇所のうち1箇所は、岩盤の崩落があり、引き続き崩落の恐れがあるため、1箇所調査を実施した。			写真4

※ タイドプール:干潮時に海辺の岩場にできる潮だまり

【参考】

《環境監視計画以外の環境調査》

○ カンムリウミスズメ(写真5)

2019年度調査の結果、計画地点周辺海域において13回延べ28個体を確認した。
計画地点周辺海域において広く確認されたが、工事施行区域内での出現はなかった。

○ カラスバト(写真6)

2019年度調査の結果、計画地点において、8月に鳴き声を確認した。
なお、鼻繰島においては4, 5, 6, 8, 9, 10, 11, 2, 3月に姿および鳴き声を確認した。

《その他》

- 鼻線島におけるミサゴの繁殖状況について(写真7)
2019年7月に2羽の幼鳥の巣立ちを確認できたことから繁殖は成功した。
今後も繁殖が継続して行われる可能性があるため、引き続きの生息状況を確認する。
- 鼻線島におけるクロサギの繁殖状況について(写真8)
2019年度に初めて鼻線島でクロサギ※の繁殖行動を確認し、継続観察した結果、2019年7月に巣立ち後の幼鳥3羽を確認した。
今後も繁殖が継続して行われる可能性があるため、引き続きの生息状況を確認する。
※ 絶滅危惧Ⅱ類(レッドデータブックやまぐち2019)の鳥類

【調査写真】

写真1:ハヤブサ



(5月8日 ふ化後30日前後のヒナ2羽)

写真2:植生



イヨカズラ



ジュウニヒトエ



イヌフグリ



キンラン



ギンラン



クロムヨウラン



ミヤマウズラ



ビャクシン

写真3:海生生物



ヒジキ



イボニシ



ノコギリモク



サザエ

写真4:カクメイ科等の貝類



5月15日 カクメイ科の貝類

写真5:カンムリウミスズメ



(8月1日 長島の北)

写真6:カラスバト



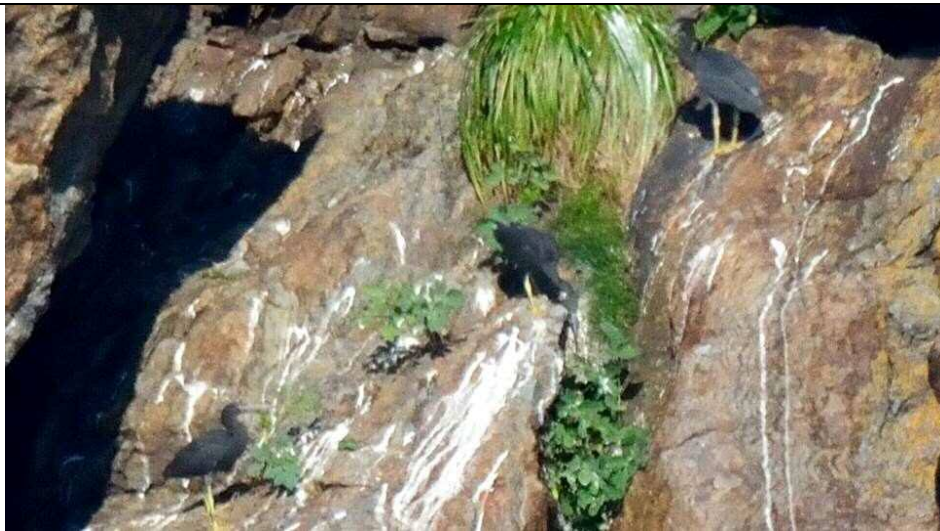
(4月25日 鼻繰島)

写真7:ミサゴ



6月4日 巣内の雛2羽

写真8:クロサギ



7月25日 巣立ち後の幼鳥3羽

【2019年度環境監視調査結果に対する環境監視委員からの主なご意見】

項目	主なご意見
水質 (陸域工事排水)	水質調査結果は管理目標値内であり、大きな変化は見られない。
陸生生物 (ハヤブサ)	2019年度は、2羽の幼鳥の巣立ちを確認でき、繁殖は成功しており、過去の調査結果と比較しても、顕著な変化は見られない。
陸生生物 (植生)	出現数は多少の増減は見られるが、顕著な変化は見られない。増減は日当たり等の生育環境によるものと考えられ、工事のない状況においても自然要因による増減が確認されている。
海生生物 (潮間帯生物, 海藻草類, 底生生物)	経年比較すると、出現種数については多少の増減は見られるが、過年度調査の変動範囲内であり、主な出現種も含めて顕著な変化は見られない。
海生生物 (スナメリ)	経年比較すると、1回確認当たりの頭数は過年度調査とほぼ同等で顕著な変化は見られず、周辺海域で広く生息が確認されている。
海生生物 (カクメイ科等の貝類)	カクメイ科の貝類を1個体確認しているが、 Tideプールの水質、底質は過年度調査の変動範囲内であり、生息環境に顕著な変化は見られない。

以上